



市民の声を市政に反映

杉森ひろゆき

市議会議員ニュース

杉森弘之後援会広報委員会発行
765号 2019年7月2日
 〒300-1235 牛久市刈谷町1-41-8
 TEL・Fax : 870-0335
 携帯 : 090-5587-7693
 Mail : sugimori@max.hi-ho.ne.jp

公立幼保の維持存続を

幼保無償化 B

6月定例会一般質問 ①-B

杉森議員は6月20日、牛久市議会6月定例会で、①幼保無償化、②高等教育無償化、③職員採用における年齢制限の撤廃、について一般質問しました。今号では①のBを掲載します。

実費徴収への対応

【杉森議員の質問】次に、実費として徴収されている費用、例えば通園送迎

費、給食などの食材料費、行事費などについては、補助の対処となっていないことに関して質問します。これらについての牛久市の現状と、今後の対応策をどのように考えているか、伺います。

360万円未満世帯は免除

【保健福祉部次長の答弁】生活保護費受給世帯については、これらの費用負担に対する補助制度があります。今回の無償化に実施にあたって、3歳以上児に対する給食副食材料費も保護者から徴収できるものとされ、年収360万円未満の世帯については徴収が免除されることとなっています。市としては、現在、独自の支援については予定していませんが、給食副食材料費の金額については、今後、国から示される制度設計を見ながら決定していきたいと考えています。

公立 4/4 負担は地方交付税で

【杉森議員の質問】保育所運営費の概ね50%が保育料であり、残る費用の負担割合は国2/4、都道府県1/4、市町村1/4といわれています。「三位一体の改革」により、2004

年度から公立分のみ国及び都道府県負担が一般財源化された結果、公立は市町村4/4となりました。新制度以降も国と都道府県・市町村との間の財政負担割合は変わっていません。他方で、公立の場合、市町村4/4の負担費用に対する国の地方財政措置をみると、市町村が負担する費用を基準財政需要額に反映させ、地方交付税等で保障する仕組みになっています。

民営化の根拠は何か？



しかし実際には、適切な措置となっていないために、市の負担が増大しているとして、市立保育園・幼稚園を減らす論拠とされてきました。根本市長は市立保育園・幼稚園の存続を明言されてきましたが、幼保無償化以降もこの方針を変更なく堅持されるのかどうか、保護者の間には不安の声をありますが、市の見解を伺います。

保育ニーズを見て

【保健福祉部次長の答弁】公立保育園は、従来から民営化を進めるという方針を示しており、そのことについて変わりはありません。公立保育園の今後については、幼児教育の無償化によって、保育ニーズがどうなるか、待機児童が増えるのか等、状況を見極め対応していきたいと考えています。また、公立幼稚園については、教育委員会の諮問を受け幼稚園運営協議会にて協議し、2園体制で存続するとした答申を受け、市としての存続を決定し、現在に至っています。

家庭内暴力、止める方法あります

1/6

斎藤環・筑波大教授に聞く

朝日新聞デジタル 6/20 (聞き手・中村靖三郎)

家庭内暴力に対する参考になる上記の記事が掲載されていまして、6回に分けて転載します。今回は第一回目です。

ひきこもりに、家庭内の暴力が伴ったら、どうすればいいのか。日々暴力におびえ、眠ることすらできず、追い詰められた家族が、結果的に殺傷事件を起こす悲劇も繰り返されています。しかし、20年以上にわたりひきこもり問題に向き合ってきた精神科医の斎藤環・筑波大教授は、「適切に対応すれば、ほとんどの家庭内暴力は解決が可能だ」と言います。具体的な対応方法を聞きました。

否定的な言動への反発としての「暴力」

——ひきこもりのうち、家庭内暴力はどのぐらいあるのでしょうか。

私の統計では、10%弱のケースに慢性的な暴力が伴い、50%程度に一過性の暴力が伴う。暴力と引きこもりは、親和性が高いと言わざるを得ない状況があります。ただ、それは外向きの攻撃性ではなく、内向きの攻撃性です。家で暴れているからといって通り魔になることはありません。

ひきこもりに家庭内暴力は少なくないが、犯罪率は低い。ここでの犯罪は、起訴されて成立した犯罪を指します。ただ、DVが起きやすい環境になりやすいのは事実です。それはよく知って頂く必要があります。

——家庭内暴力に結びつく背景に何があるのでしょうか。

一般的には、家族が本人を責めることです。本人の人格を否定したり、怠け者扱いをしたり、「早く仕事をしろ」などと追い詰められると、それに対する反発として暴力が起こる、という構図があります。皮肉や嫌みを慢性的に言われたり、否定的な言動で苦しめられたりしている当事者は多いです。私が今ま



でしてきた仕事の半分ぐらいは、家族に、本人に対する批判や否定をやめてもらうことでした。

——やめるだけで、変わりますか？

かなりの割合で、親からの暴言や批判に反応して起こる暴力があり、こ

れはやめれば暴力が終わります。やめて、本人の話をちゃんと聞く、と切り替えれば終わる暴力がいっぱいある。まずは親御さんが自分の胸に手を当てて、本人を追い詰めていないか、振り返って頂きたい。

本人は、親が自分をコントロールしようとしていることに非常に敏感で、怒りを感じます。枕元にアルバイト雑誌等を置いておき、「これを見て奮起しなさい」といったやり方はほとんど嫌がらせです。見てほしいものがあつたら直接渡して「読んでくれるとうれしい」と言うぐらいの感じでやってほしい。

一方、刺激しなくても起こる暴力があります。「慢性型の暴力」です。家族は特に何もしていないけれど、本人がささいなことに言いがかりや難癖をつけて、暴れ出す。例えば「ご飯がまずい」とか「タオルを交換していなかった」とか。これは比較的やっかいです。家族は何をどうしたらいいか、わからないからです。

長らく密室的な親子関係が続いていると、本人が自分のこれまでの人生に対してすごく否定的な思いを抱いている。「自分の人生は価値がない」「自分は生きている意味がない」「惨めだ」。その思いを、自分1人では引き受けられない。「こうなったのは自分のせいだけじゃない」「親の育て方がまずかったんだ」。様々な思いが渦巻いていて、他責的になりやすい。他責的になってしまうと、親にぶつけないでいられなくなってしまうことがあります。これが慢性的な暴力の根源にあります。

(つづく)